

「イエス様が使ってください」

マタイによる福音書 26:1-16

2024年2月25日
野村 友美 師

<思いを高く超えている>

受難節の2週目に入りました。

気候もだんだん春らしくなってきて、少しずつ、でも確実にいろんなことが変わっていくのを感じています。中学や高校、大学受験の結果も、だんだんと出てき始めていますね。

就職や転職で、環境が変わることが決まる時期でもあるでしょう。先週は、この呉教会が所属している日本ナザレン教団の年会が行われて、新しい年度に向けて必要なことが話し合われました。

変化する、変わっていく、というのは、良くも悪くもドキドキするものです。何があるのか、どうなっていくのか、期待も不安もいろいろある中で、私はいつもイザヤ書のこの言葉を思い出します。

「私の思いは、あなたたちの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なると、主は言われる。

天が地を高く超えているように、わたしの道は、あなたたちの道を、わたしの思いは、あなたたちの思いを、高く超えている。」

(イザヤ55:8-9)

新しいこと、変わっていくことに、心を揺さぶられる時も。わたしたちの思いを高く超えて、思

いがけない道を通して、素敵なことを見せてくださる神様がおられる。この事実励まされて、一歩ずつ進んでいきたいと思えます。

<イエス様をめぐる>

さて、今日の聖書の物語には、イエス様をめぐるいろんな人たちが登場します。イエス様を捕まえて殺そう、と相談しているイスラエルの指導者たち。イエス様の頭にいきなり香油を注ぐ女性。イエス様を裏切って、敵に売り渡すことを決めたイスカリオテのユダ。

みんなキャラが濃いですね。

キャラも濃いし、やっていることも濃いですが、それぞれがイエス様に向けている気持ちもかなり濃かったみたいです。

明後日から過越祭が始まるけど、私は十字架につけられるために引き渡される、とイエス様が弟子たちに予告していたその頃。

イエス様の予告どおりに、人々が動き始めました。祭司長と長老たちは、イスラエルの宗教と政治を動かす人々、言ってみればユダヤ民族を代表する人たちです。

彼らはリーダーの大祭司カイアファの家に集まって、こっそりとイエス様の殺害計画を練っていました。国を代表する人たちが、特に高い身分も権力もないイエス様ひとり殺すために、わざわざ集まってひそひそ相談していたんです。そうせずにはいられないぐらい、彼らにとってイエス様はよっぽど扱いに困ってしまう存在だったんでしょう。

聖書が伝えていることを読む限り、この当時の祭司長たちや長老たちが、特別に悪い人たちの

集まりだったとは思えません。

もちろん、すごく良い人たちが訳でもないんですけど。神様のことをみんなに伝えて、悪霊を追い出したり病気を治して苦しんでいる人を助けて、時には不思議なことを起こしてみせる。そんなイエス様の周りには、いつもたくさんの人たちが集まってくるようになっていました。そして多くの方が、イエス様こそ神様が遣わしてくださったメシア、新しい王様だと思っていたんです。

イスラエルを導いて、世界中の人々を神様に従わせる、約束の救い主がとうとう現れた！

本当なら、祭司長たちや長老たちにとってもそれは嬉しいニュースだったはずですよ。

でも当のイエス様は、彼らに協力的で扱いやすい人物ではありませんでした。

自分たちが守っている体制とか決まりとか、習慣とか区別とかにそのまま都合よく納まってくれない。それどころか、そういうものを壊して、新しい考え方とやり方で人々に影響を与えている。

これは指導者たちにとって、とても危険だと感じることだったんです。もちろん、自分たちの立場とか支配力を奪われるかもしれない、という個人的な焦りや怖さもあったでしょう。

でも、それだけではありませんでした。

当時のイスラエルは、ローマ帝国の支配の下にありました。もしイスラエルの人々が、今の指導者たちにおとなしく従わないイエス様をリーダーに担ぎ上げて、ローマに反抗し始めたらどうなるか。

自分たちの力では抑え込めなくて、結局イスラ

エルはローマに滅ぼされてしまうかもしれない。そういう危機感を、彼らは持っていたんです。もしイエスが本当にメシアだったとしても、指導者の自分たちがコントロールできないんじゃないかと危なくって仕方がない。だから今のうちに、と彼らはイエス様を殺すことにしたのです。

イエス様を思い通りにコントロールしたかったのは、イスカリオテのユダも同じだったんでしょう。

ユダはイエス様の弟子たちの中でも、特にイエス様と一緒に働くように選ばれた、12人の使徒たちの一人でした。他の福音書を見ると、彼はイエス様一行のお金の管理を担当していたようです。きっと経済的な考え方がしっかりしていて、いろいろきちんとしておきたい性格の人だったんじゃないかな、と想像できます。そのユダがどうしてイエス様を裏切ったのか。そっと弟子を辞めるんじゃないかと、なんでわざわざイエス様を殺そうとしている人たちに売り渡したのか。その理由について、福音書は何も語っていません。

何かイエス様に腹を立てていたのかもしれないし、ただお金が欲しかったのかもしれない。銀貨30枚は、銀貨の種類がはっきりしないので確かなことはわかりませんが、だいたい労働者の給料4ヶ月分ぐらいの金額だろうと言われています。

少なくはないけど、ものすごい大金というわけでもなさそうです。使徒になったぐらいですから、ユダも最初は「この人について行くぞ！」と決心して、仕事も家族も置いてイエス様に従った、熱心な弟子だったんでしょう。

そうやって、イエス様に惚れ込んでついて来ていたはずのユダが、そんなに大金でもない金額で、イエス様を敵に売り渡した。

そこには、ただお金目当てだけじゃないユダの気持ちが表れているように思えます。

こんなに好きになって、こんなに期待して、たくさん犠牲を払ってイエス様のために働いたのに、イエス様は私の期待通りにしてくれない。

裏切られた、がっかりさせられた、という思いが爆発して、ユダにこんな裏切り方をさせてしまったんじゃないでしょうか。

思い通りの救い主でいてほしかった。

自分の期待を満足させてほしかった。そんな怒りとか不満でいっぱいユダに、悪の誘惑が囁きかけたんです。

<愛を受け取る救い主>

自分たちに都合が良くない、期待通りに満足させてくれない。そんな救い主なんか要らない！という人たちがいる一方でひとりの女性がイエス様の前に出てきます。彼女の名前も、どんな人なのか、マタイの福音書は何も紹介していません。この女性は突然現れて、人の家の食卓についておられたイエス様に近寄ってきました。そして、持っていた壺からとても高価な香油、良い匂いのする油をイエス様の頭にどばどばと注ぎかけたんです。無言でいきなり頭から香油をかけられたんですから、イエス様もきっとびっくりなさったでしょう。周りで見っていた弟子たちもびっくりして、彼女に怒りました。

なんてもったいないことをするんだ！

どうせ使うんだったら、その香油を高く売って

貧しい人たちのために使えばよかったのに、こんな無駄遣いして！怒るポイントはそこなのか、とも思いますが。

この女性がなぜこんなことをしたのか、それも聖書は説明していません。どういう気持ちだったのか、どうして香油だったのか、真相は彼女以外の誰にもわかりません。

ただ一つ確かなことは、イエス様に注がれた香油はとても高価で、きっとこの女性が持っていた中でいちばん価値があるもの、彼女の大事な財産だったということです。

ヨハネの福音書では、この香油は300デナリオン、労働者の給料1年分ぐらいの価値があるものだったと言われています。ユダがイエス様を売り渡した金額の倍以上、いえ、3倍ぐらいです。おもてなしとか埋葬の準備とか、香油の使い方はいくつかありました。ただ、これだけ高くて質の良い香油は、「ここぞ！」という時に使うためのとっておきのものでした。

そのとっておきの「ここぞ！」を、この女性はこの時イエス様に使ったんです。特別高いものじゃなくても、皆さんが何か、ご自分のとっておきの「ここぞ！」を使ってもいいと思えるのは、どんな相手でしょうか？私だったら、すごく親しい人とか、尊敬している人、お世話になっている人、自分にとって大事な相手にこそ使いたいです。皆さんもきっとそうなんじゃないかと思えます。誰よりもまずこの人に喜んでほしい、と思える相手。大事にしたい、「あなたが大事だ」と伝えたい、そういう相手にこそ私たちは自分のとっておきの「ここぞ！」を差し出します。

イエス様に香油を注いだこの女性は、誰よりも

まずイエス様に喜んでほしかったんです。
他の誰でもないイエス様に「あなたは私にとって大事なお方だ」と伝えたかったんです。
彼女が香油に込めたこの思いを、イエス様は受け取られました。なぜ香油を頭からかけたのか、
どういう経緯があったのか、弟子たちが言ったように他の方法じゃだめだったのか。
そんなことを、イエス様は彼女に問い詰めたりはなさいませんでした。それどころか、「なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ」と弟子たちをたしなめました。
イエス様は彼女がしたことを、「無駄遣い」じゃなくて「良いこと」として喜ばれたんです。
そして、注がれた香油は「わたしを葬る準備」と言われました。イエス様がもうすぐ十字架にかけられて死んでしまう、ということ
この女性があらかじめ知っていたはずはありません。ですから「イエス様を葬る準備のために香油を注ごう」なんていうつもりは多分、彼女本人にはなかったんじゃないかと思います。
それでもイエス様は、「この人がわたしを葬る準備をしてくれた」と言っておられます。
これからご自分が成し遂げられるいちばんの大仕事、十字架で死んで葬られるという大事な出来事のために、この人が注いでくれた香油を受け取って使う、とイエス様は宣言なさったんです。周りの人たちから見たら「そんなの無駄だ、他にもっと役に立つことがあるのに」と思えるようなこと。それでも「イエス様に喜んでほしい、イエス様が大事だと伝えたい」、そう願って差し出された彼女のとおき「ここぞ！」は、差し出した本人の思いさえも超えて、イエス様

の大事な働きのために使われたんです。
誰から見ても価値があって、納得できて、役に立つものだから喜ばれるんじゃないありません。
たとえ他の人の目には無駄で、ふさわしくなくて、役に立たないと思われるようなことだったとしても。誰よりもイエス様に喜んでほしい、イエス様を大事にしたいと願ってそれぞれが差し出す精いっぱい「ここぞ！」をイエス様は喜んで受け取ってくださるお方です。

「わたしに良いことをしてくれた」と言ってくださって、私たち自身の思いを超えて、神様の愛をあらわすためにお使いになる。このお方が、今も私たちと一緒にいてくださる救い主なんです。今、私たちが生きているこの世界は、争いに、災害に、悲しみや怒りに、苛立ちや絶望に、薄暗く覆われています。この暗闇の中で、でも一緒にいてくださるイエス様に、希望の光を見続けることができますように。

イエス様の十字架が示している、私たちの思いを超える神様の愛と力に信頼して、祈り続けることができますように。

小さな私たちの精いっぱい「ここぞ！」を差し出して、イエス様の働きに使っていただくことができますように。

今日もご一緒に祈りながら、それぞれの生活へと送り出されてまいりましょう。

お祈りいたします。